

夏祭りの鐘と太鼓の音が、本格的な夏の訪れを感じさせてくれる。暑いからこそ、冷たい麦茶がより引き立つうれしい季節。

現在会員登録数2,997人さま。次号は8月20日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば 1

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。開催は9月21日（土）で、参加費はお一人500円（大人・子ども同額）です。申込締切は9月9日（月）必着。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#010921

● 「第36回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（木）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#36boshu

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第33号の原稿を募集しています。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

◇ 「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第32号」を販売しています。

発行：当財団 2019年3月 A5判 164頁 1500円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Jun's Talk

『ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集』 齊藤倫
/著 高野文子/画 福音館書店 2019年4月

対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：一人暮らしの「ぼく」がカップめんやレトルトカレーや枝豆を食べようとしていると、小学生の「きみ」がふらっとやってきて、先生に「本を読め」と言われたと言ったり、山のような本を見て「かつじちゅうどくなの？」と「ぼく」に聞いたり、一緒に枝豆を食べたりする。そのたびに「ぼく」は、「きみ」に詩を見せて、二人で詩について語り合う。

J：これまでになかったとても新鮮な本だと思って読みました。おじさんと小学生の物語というフィクションの中に、現代詩人からまどみちおまでとても興味深い詩が紹介されていて、詩の解説書のようにも読めます。おじさんと小学生の会話で成立している作品という枠組みは『君たちはどう生きるか』（吉野源三郎）を思い出しました。

Y：『君たち・・・』と根本的に違うのは、おじさんが「きみ」に「生きる」ことを教えるのではなく、家族ではない異世代の二人が対等な立場で双方向に影響しあっていることが読み取れるところだと思いました。

J：子どもは詩に出会い、おじさんは子どものことばから詩やことばの本質について気付かされていることが読み取れます。おじさんが「ことばに、ならないものが、詩なんだよ」というと、子どもがすかさず、「でもさあ、これ、ことばだよ。ぜんぶ」(p.48)と言う。難しいことばを一切使わず、詩の本質に迫ります。

Y：読んでいくと、子どもとおじさんの関係がわかってきます。大人として読むと、特に、関係がわかる表現は、詩のように感じました。そういう意味では、全編がとても詩的な作品です。

J：全10章が毎回「食べる」ことで始まることもユーモラスで、そのシーンの積み重ねが、二人の関係の深まりを象徴しています。

Y：「食べる」「詩とは」ということに加えて、「死とは」「生きるとは」「時間とは」「子どもとは」「ことばとは」など、哲学的な思索に出会うことのできる作品だと思いました。これはタイトルからも読み取ることができます。高野文子さんの絵が日常と空想（フィクション）の世界を巧みにつないでいます。

J：私は教員養成課程で詩が苦手な学生に多く出会いますが、そんな学生たちにもぜひこの本を読んで欲しいと思いました。

* 今回のゲストは当財団特別専門員の遠藤純さん（J）です。

《 2 》 イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第 47 回「烏の北斗七星」
「愛」と「戦」と「死」

〈大丈夫さ。しかしもちろん戦争のことだから、どういう張合でどんなことがあるかもわからない。そのときはおまえはね、おれとの約束はすっかり消えたんだから、外(ほか)へ嫁(い)ってくれ。〉

あす、山鳥との戦いがあるという宵に、烏の大尉は、許嫁(いいなずけ)にこういいます。許嫁は、「それではあたし、あんまりひどいわ、かあお、かあお、かあお、かあお。」と泣くのですが。

許嫁の手をしっかりとぎって、自分の隊に帰ったあとも、大尉は、なかなか眠れません。「おれはあした戦死するのだ。」とつぶやき、マジエル様と呼ぶ北斗七星をあおいで、「ああ、あしたの戦(たたかい)でわたくしが勝つことがいいのか、山鳥がかつのがいいのかそれはわたくしにわかりません、ただあなたのお考のとおりです、わたくしはわたくしにきまったように力(ちから)いっぱいたたかいます」と祈ります。

明け方の白い光のなかで山鳥との戦いは始まり、烏の義勇艦隊の勝利に終わります。大尉は、大監督に「わが軍死者なし。」と報告し、「就ては敵の死骸を葬りたいとおもいますが、お許し下さいませうか。」とたずねます。戦いの勝利によってもう少佐に昇進した彼は、「よろしい。厚く葬ってやれ。」と許しを得たあとに、また、北斗七星に祈るのです。——「ああ、マジエル様、どうか憎むことのできない敵を殺さないでいいように早くこの世界がなりますように、そのためならば、わたくしのからだなどは、何べん引き裂かれてもかまいません。」

シベリア出兵(1918~22年)の時代に書かれた童話ですが、烏の世界で愛と戦いと死を象徴的に描くことによって、戦争のなかに身を置かざるをえなかったもののすがたが、はっきりした輪郭で書かれています。

この童話は、特攻隊員として沖縄海上で戦死した学生が書き残した手記でふれられていることでも知られています。『きけ わだつみのこえ 日本戦没学生の手記』(1949年)に収められた、その手記は、東大経済学部学生、佐々木八郎のもの。23歳で戦死しました。「烏の北斗七星」のことを書いた部分の見出しが「『愛』と『戦』と『死』」です。(馬車別当)

(本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 1

今回から、子どもの本やその関連書の中で、私の心に響いたことばを紹介していきたいと思えます。

どれほどやさしいことばで語られていても、それが心の眼に見える絵を描いていない場合には、あるいは新たな心象を導きだす心象(どんなに素朴なものであれ)に欠ける場合は、子どもの注意をひきつけることができません。
(渡辺茂男『幼年文学の世界』日本エディタースクール出版部 1980年 p.62)

これは、『エルマーのぼうけん』（ルース・スタイルス・ガネット/作、ルース・クリスマン・ガネット/絵）を訳し、絵本『しょうぼうじどうしゃじぶた』（山本忠敬/絵）や幼年文学『もりのへなそうる』（3作とも福音館書店）を書いた渡辺茂男が『幼年文学の世界』の「幼年文学の創作」の中で書いていることばです。

渡辺は、幼児期の子どもは「目に見える現実のありのままのすがたや形の中に、生命を感じるように視」る力、「すべてのものを生きていると感ずる素朴な力」を持っており、これらの力は先祖から引き継いだものだと述べています。そして、子どもは、「まわりの世界を」「できごととして見る」とも述べ、グリム童話の『カエルの王さま』を例にとりながら、いかに昔話ができごとの連なりによって、「想像力を躍動」させているかを説明しています。

つまり、引用のことばは、幼年文学は、世の中をできごととして見るという幼年期の子ども独特のものにとらえ方を踏まえて、できごとの連なりによって、生命力あふれる心象（イメージ）が積み重なり、広がっていくような作品であるべきだと解釈できます。

「心の眼」ということばに、子どもにはものの本質をとらえる力があるという信頼感が読み取れ、幼年文学の魅力として想像力をかきたてることの重要性を述べている点に、今なお説得力を感じます。（Y）

《4》 行って来ました！

細見美術館で8月18日まで開催されている展覧会「世界を変える美しい本 インド・タラブックスの挑戦」に行ってきました。1994年に設立された南インド・チェンナイの出版社「タラブックス」で作られたハンドメイドの本を中心に、原画や本、写真、映像などの資料が展示されています。

タラブックスのシルクスクリーンで一冊ずつ印刷する初めてのハンドメイド絵本は、1995年のインドラプラミット・ロイさん作の『はらぺこライオン』（ギタ・ウルフ/文 アートン 2005年）。当財団では、2009年に開催したシンポジウム「インドと日本の絵本」にロイさんをお招きしました（※）。

2006年に出版された『夜の木』（タムラ堂 2012年）は、3人のゴンド族の画家による繊細な線で描かれた作品です。鳥がとまっていたり、蚕が棲んでいたりとするいろいろな木の原画（紙にインクで描かれたものと、アクリルで彩色されたもの）がずらりと並んでいます。実際にシルクスクリーンで印刷された、いろいろな国で出版された本の表紙は、採用されているページが異なり、原画と見比べることができ、その美しさにみとれてしまいました。

インドのさまざまな民族の伝統的な芸術をそれぞれの民族画家と対話やワークショップを重ねて一冊の本としてつくられた作品もたくさん紹介され、見ごたえたっぷりです。『マンゴーとバナナ まめじかカンチルのおはなし』（アートン 2006年）のように、木版捺染（ブロックプリント）した伝統的な布を絵本にした作品、壁や床に描く代わりにクラフト紙に指で描いたミーナ画の作品、家政婦だった少女が画家になるまでの自伝的なミティラー画の作品、津波を題材にした縦に長い絵巻物をじゃばら折りの本にした作品など、人の暮らしの中に息づく芸術を追求しているタラの姿勢に芸術とは何かを考えさ

せられました。

※『シンポジウム報告集「インドと日本の絵本」・論文集「インドの絵本」』
(1,512円)

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

- 児童文学講演会ーすべての子どもに本のよろこびをー
日 時：8月10日(土) 13時30分から16時30分
会 場：ドーンセンター 5階セミナー室 (大阪府中央区大手前)
講 師：畠山兆子(梅花女子大学・大学院教授)
内 容：第1部 講演会「物語の魅力ーTVアニメからライトノベル、そして上橋菜穂子の世界ー」
第2部 育てる会総会
第3部 お話と語り「三枚のお札」ー原点から絵本までー
講 師：来栖史江(朗読とピアノ・アサクル主宰)
参加費：有料 申込み：要
主 催：大阪国際児童文学館を育てる会
後 援：大阪府子ども文庫連絡会／大阪国際児童文学振興財団

- 資料小展示「フランダースの犬ーネロとパトラッシュのさまざまな姿ー」
イギリスの作家ウィーダによる『フランダースの犬』(1872年)が日本で明治から平成にかけていかに受容されたかがわかる展示です。

会 期：開催中～9月23日(月・祝) 休館日あり 入館無料
会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 (東大阪市荒本)
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
企画監修：佐藤宗子(千葉大学教授)

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.107 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は8月13日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — |

この時期思い出すのは子どもの頃の夏休みの宿題。最初の「7月中にやり終えて8月はしっかり遊ぶぞ！」との威勢のよい誓いもむなしく、お盆明けぐ

らいから焦りだす。結局、8月末日まで手こずるという体たらく。拳句の果ては、「短期間でもやり終える俺ってすごい！」との自己満足に至り、そしてまた翌年も・・・。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
